

令和6年度 岡山大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)  
自己点検・評価結果(案)

令和7年4月

岡山大学AI・数理データサイエンスセンター

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
プログラムの履修・修得状況	○	AI・数理データサイエンス教育推進部門および各学部の教務委員会等でプログラムの履修・修得状況の報告を行い、開講状況を把握している。 さらに、履修状況や授業実施形態を把握することで、次期に開講するクラス編成や授業実施形態などの改善に結び付けている。	引き続き履修状況等を把握することで、次期開講する際のクラス編成や授業実施形態などの改善に結び付ける。	今後、岡山大学において教育改革が予定されており、それに伴い本プログラムの時間割にも変更が加えられる見込みである。そのため、履修および修得状況への影響について注視する必要がある。
学修成果	○	令和6年度シラバス等を確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件である3つの基本的要素について、モデルカリキュラムとの対応関係があると認められた。	引き続きモデルカリキュラムとの対応を意識しながら教育内容を充実させる。	
学生アンケート等を通じた学生の意欲と満足度	○	受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、令和6年度の「学生が授業に能動的に参加し、意欲的に取り組んだか。」についての5段階評価は全学部平均4.18、「学生の授業全体に対する満足度」についての5段階評価は全学部平均4.19であり(いずれも教養教育科目のみ)、授業内容や授業方法の改善を図る体制及び後輩等他の学生へ推奨度の向上につながる体制が整備されている。		
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本教育プログラムの中の主に1年次生が受講する「数理・データサイエンスの基礎」を履修することで、運用上、学生全員にプログラム履修資格があるものとして扱っている。 本授業は今後も継続開講することから履修率は学年進行で向上するが、「数理・データサイエンスの基礎」の初回・最終回等にプログラム全体について周知したり、AI・数理データサイエンス教育推進部門のホームページで、本学の数理・データサイエンス・AIに関する取り組み、学ぶことの楽しさ、社会的意義を伝えて向上に向けた計画を遂行している。 また、本プログラムが学生にとって履修しやすい時間割になっているかを確認し改善を行うこととしている。	引き続きプログラムの履修を促すため「数理・データサイエンスの基礎」の初回・最終回等にプログラム全体について周知したり、ホームページで本学の数理・データサイエンス・AIに関する取り組みを伝えていく。 また、学生が履修の際に参照する学生便覧に記載するとともに、新入生に対しては入学当初のWEB配布物へ本プログラムについて掲載したり、オリエンテーションにおいて広報を行うことで履修率向上を目指す。 今後も各学部の状況、学生の履修状況をチェックして、授業数や授業実施の時期を適宜見直していく。	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価				本プログラムは令和4年度から開始したため、今年度、プログラムを修了した初めての卒業生が5名いた。 評価方法としては本学では3、4年に1回卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査を実施しているため、今後この結果等を利用する。

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	<p>数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおける中国5国立大学の数理・データサイエンス部会によるシンポジウム等(数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム第1回中国ブロックワークショップ6月7日, 第1回コンソーシアム中国ブロックシンポジウム7月12日, 第2回コンソーシアム中国ブロックワークショップ10月4日, 第2回コンソーシアム中国ブロックシンポジウム11月29日, 第3回コンソーシアム中国ブロックワークショップ3月17日)に参加して, 中国地区の大学等をはじめとする産業界からの視点を含む意見を収集している。</p> <p>また, 3月13日には主に岡山県内の大学, 高等学校の関係者を集めたシンポジウムを開催し, 本学の取り組みを広く学外にアピールするとともに, 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を収集している。</p> <p>令和6年度より, 産業界における需要が高まっている生成AIに関する解説を, 教育プログラムに組み込んでいる。</p>	<p>今後も引き続いてアンケート調査の分析結果や中国地区の大学等, 産業界の視点を含む意見を収集して, 教育プログラムの改善に活用する。</p>	
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	<p>本教育プログラムの一部は既に認定されたりテラシーレベル「数理・データサイエンスの基礎」の授業を含んでおり必修科目としているため各学部の1年次生全員が受講できる体制となっている。</p> <p>この授業は, 各学部の教員が授業を行うため, 数理・データサイエンス・AIが各学部の領域で活用されている最新の事例, 実例などを扱い, 学生が学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解し興味を持ちやすい内容となっている。</p> <p>さらに, その他の教養教育科目では演習を行うことで実際の統計ソフトに触れたりしている。また各学部の専門教育科目についても, それぞれの学部の状況に応じた専門性を生かしたプログラムとなるように工夫をしている。</p>	<p>今後, 適宜教育プログラムを見直し, 授業内容については適宜改善を図っていく。</p>	
内容・水準を維持・向上しつつ, より「分かりやすい」授業とすること	○	<p>全科目について授業評価アンケートを全学的に実施しており, 結果を担当教員および各学部教授会にて全構成員で共有しており, 個々の教員の授業内容の向上に寄与している。</p> <p>また, 評価に問題のある授業については, AI・数理データサイエンス教育推進部門や各学部教務委員会等から担当教員へ助言を行う体制を整えている。</p> <p>AI・数理データサイエンス教育推進部門において, 学生アンケートや関連学会の動向, 他大学の授業内容, 地域企業, 官公庁からの意見を参考に, 授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っており, 今後も継続していく予定である。</p>	<p>今後も継続して授業評価アンケートの分析結果や関連学会の動向, 他大学の授業内容, 地域企業, 官公庁からの意見を参考に, 授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っていく。</p>	

本教育プログラムは令和5年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定